

平成28年度 厚生環境常任委員会 行政視察報告書

1 調査期間

平成28年10月12日（水）～ 10月14日（金）

2 視察都市及び視察事項

期日	視察都市	視察事項
10月12日（水）	宇都宮市	「まちぐるみで認知症ケア」の取り組みについて
10月13日（木）	富山市	環境モデル都市の取り組みについて 富山市エコタウン事業について
10月14日（金）	金沢市	地域包括ケアシステムの取り組みについて

3 視察者

脇 礼子（委員長） ・ 原田 伴子（副委員長）
山内 幹郎 ・ 桜井 直人 ・ 永井 譲 ・ 有賀 正義
平川 和美 ・ 宮戸 光 ・ 佐藤 春雄

4 視察事項の概要

[宇都宮市]

- ① 人口及び面積 518,712人 416.85km²
- ② 平成28年度一般会計予算 205,300,000千円
- ③ 視察事項の事業概要

(1) 「まちぐるみで認知症ケア」について

平成21年3月に策定された「にっこり安心プラン（第5次高齢者保健福祉計画及び第4期介護保険事業計画 平成21～23年度）」において、リーディングプロジェクトとして位置付けた認知症高齢者対策の実効性を高めるための具体的な施策や事業を取りまとめたもの。

- ・「認知症啓発月間」を設け、理解促進を図るための普及啓発を行う。
- ・早期発見・早期診断のためのチェックリストの作成配布。
- ・予防教室、家族介護教室、高齢者の権利擁護など既存事業の充実。

(2) 認知症見守りグッズ配布事業について

徘徊などの恐れのある高齢者が、外出時に身元確認につながるための「見守りグッズ」を配布している。

(3) 「知ってあんしん認知症ガイドブック（認知症ケアパス）」について

認知症の進行に応じて、市で受けられるサービスや支援など、必要な情報を取りまとめたガイドブックを作成配布している。

(4) 認知症サポーター養成講座について

平成23～25年度で養成講座の受講者が右肩下がりになってきたことで、住民の対象者を若い世代にシフトするよう変えたことで、また右肩上がりに増加し、平成27年度までで計24,575人のサポーターを養成してきている。高齢者数は121,282人、サポーター1人当たりの担当高齢者人口は4.9人である。

(5) まちぐるみで認知症ケア支援団体登録事業について

認知症サポーターの養成に積極的に取り組む企業・団体（平成28年9月末で、165団体。2つの警察署も含む。）に対して、認知症サポーターのステッカーを配布。

(6) 認知症サロン事業

公益社団法人「認知症の人と家族の会栃木県支部」の協力のもと、認知症サロン（カフェ、介護服の作成、ピアノ教室や足湯）を3か所で実施。特にカフェは、蔵を使い月に2回開催していて、認知症の方がスタッフとして働き、住民などで行列ができる人気店となっている。



【所感】宇都宮市の地域包括支援センターは50万人の人口で25か所もあり、認知症への取り組みは5年前から本格的に行われている。「まちぐるみで認知症ケア」を掲げ、認知症の方々が働くカフェを「認知症の家族の会」が運営していたり、地域包括支援センターの前身である「地域会議」から地域住民でリスクの高い人や個別ケースの情報を把握しているなど、長い歴史を経て取り組まれてきたからこそ、現在のようなところまで至っているのだと感じた。

本市でも認知症サポーターの養成は進めてきているが、受講者の内容分析や、家族の会と協働した認知症の方を働き手とするカフェ事業、また、認知症そのものを市民に理解してもらうための取り組みなど、取り入れていることはあると思った。

〔富山市〕

- ① 人口及び面積 418,179人 1,241.77km²
- ② 平成28年度一般会計予算 155,770,762千円
- ③ 視察事項の事業概要

(1) 富山市環境モデル都市行動計画について

① 富山市の概況

過去35年間で人口集中地区（DID）の面積は2倍に増加、人口は2/3に減少。世帯当たりの乗用車保有台数は全国2位、近年の増加も顕著なことから、自動車への過度な依存は公共交通の衰退を招くと課題分析していた。

平成20年に国から「環境モデル都市」に選定されたことで、行政・市民・企業が一体となってCO₂削減を実施するとして、平成21～25年度の取り組みを経て、平成26～30年度の第2次行動計画を策定している。

② 各種行政計画との連携

「富山市環境モデル都市行動計画」は「富山市総合計画」、環境政策上位計画である「富山市環境基本計画」、都市政策の上位計画である「富山市都市マスタープラン」をはじめ、「環境未来都市計画」など各種行政計画と連携している。目指す都市像としては〈コンパクトなまちづくり〉

③ 公共交通の活性化の推進

LR Tネットワークを形成し、歩いて暮らせるまちを実現。富山ライトレールの整備後、日中の高齢者の利用が増加しライフスタイルが変化した。利用者の25%が自動車やバスからの転換が図られCO₂を大幅に削減出来た。観光客も増加、市民も高く評価。

④ 住宅用省エネ設備や新エネルギーの導入支援

太陽光発電やエネファーム、地中熱利用システム、ペレットストーブなどへの補助事業も展開。北陸電力が富山太陽光発電所を市有地に建設。



(2) 富山市エコタウンの現地視察

北部工業地帯にあった工場跡地約18haを「エコタウン産業団地」として、資源循環拠点と位置づけ、7つのリサイクル施設を集約し、エネルギー利用も含め団地内のゼロ・エミッション化を進めている。その中にある「エコタウン交流推進センター」にて説明を受けたが、第1期として平成15年に、ハイブリッド型廃プラスチックリサイクル施設、木質系廃棄物リサイクル施設、生ごみ及び剪定枝リサイクル施設、自動車リサイクル施設が操業を開始。第2期として平成17年に、廃合成ゴムリサイクル施設、平成18年には難処理繊維及び混合廃プラスチックリサイクル施設、廃食用油リサイクル施設が操業を始めている。「木質系廃棄物リサイクル施設」の工場の中に入り工程などを見学したが、建設リサイクル法により分別解体された家屋等の廃棄物をこの工場では炭化処理し木炭ボードを製造していた。



【所感】富山市は合併や郊外開発により市民の居住面積が広がる一方、人口減少が起こってきたことで、広範囲により薄く広い市街地が形成されてきたわけだが、これを将来に向けて解決するために、公共交通の活性化により沿線人口密度を高め、コンパクトなまちづくりを目指すとされている。

この他にも廃棄物の有効利用を行うエコタウン団地も含め様々な環境計画を「富山市環境モデル都市行動計画」としているが、この計画を総合計画を始めとした各種計画と連携を図るよう位置付けていることで、環境部に限らずどの部局でも説明ができるほど市政の根幹をなしているという説明があった。

エコタウン産業団地は、公設民営による7つのリサイクル施設の集積という規模だが、全国でも富山市にしかない。現状は大きな収益がある状況ではないとも聞いたが、環境モデル都市としてCO2の削減のためだけでなく、分別を行う市民活動を生かし市民のリサイクル意識を高めるためにも作られたという。まさに、富山市が丸ごと「エコタウン」というコンセプトに包含されているように感じた。

〔金沢市〕

- ①人口及び面積 466,062人 468.64km²
- ②平成28年度一般会計予算 172,350,000千円
- ③視察事項の事業概要

(1) 地域包括ケアシステム(在宅医療・介護連携推進事業)について

①医療・介護・地域コミュニティ資源の現状

全国平均や中核市比較で診療所、病院数、在宅支援診療所・病院の数が豊富であり、薬局の数も200を超え充実している。介護は事業所、施設数は全国平均と同等だが、定員や介護職員数は少ない。地域コミュニティは小学校区に1つ存在する54の地区社協や60の公民館が地域活動を行っ



ている。民生委員1人に対してまちぐるみ福祉活動推進員2~3人がサポートしている。町会・婦人会・医師会から構成される「金沢・健康を守る市民の会」に、各町内会から1~2名の健康推進員を選出し、地域住民への健康診査の受診勧奨などを行っている。

②在宅医療・介護連携推進の取り組み

金沢市内を3つの医療連携拠点グループに分け、それぞれのグループで他職種の顔の見える関係づくりを行っている。民生委員や住民を交えて、在宅医療などに対する普及啓発活動も促進している。

また、市医師会運営で「ハートネット」というグループウェアを運営し、病院や診療所間での情報を共有。また、「ハートネットホスピタル」という病院とクリニック、医師とコメディカル（訪問看護、居宅介護事業所、薬局など）がスムーズに連携するための情報共有システムも運営している。

【所感】金沢市の高齢化率は低く若者がまだ街中に多いと感じたが、戦火による消失がなく100年以上続く建物や商店が残っていることから、地域力、住民力は低くないと感じた。民生委員をまちぐるみ福祉活動推進員2～3人がサポートしていること、54の小学校区に1つ地区福祉協議会があり、60の公民館が地域活動を担っていることなど、羨ましい地域コミュニティ資源が存在している。

行政視察ではないが「シェア金沢」という社会福祉法人「佛子園」が経営する高齢者や子どもや大学生、障がいのある人たちが共に暮らす街を訪れた。知的障がいをもつ子どもたちが4つのユニットに分かれて、3つの建物で暮らす「小規模ケア」に始まり、金沢美大生が創作に打ち込めるようアトリエ付き住宅、サービス付き高齢者向け住宅32戸、各種店舗など、小さな町を形成している。まさに、少子超高齢化社会へのモデルとなる民間主導のまちづくりである。佛子園は金沢市だけでなく近隣市で様々なまちづくりを展開しているので、また別の機会に視察し、行政とどのような連携を図っているのか聴いてみたいと感じた。